

事業名	令和2年度 和田地区歴史民俗資料展「和田口伝の機織り～女性活躍社会に向けて～」					
ジャンル	家庭教育	・	青少年教育	・ 成人教育〈展示事業〉	・	団体育成
日程	令和2年11月～12月	講師	・手織りの仲間さくら ・和田はたおり保存会	参加費	入場無料	
対象者	一般	参加者数 (延べ)	443名	募集方法	ポスター、チラシ、広報紙、 公民館だより、HP等	
趣旨	和田口伝の機織りの歴史を辿る事で、農業地域における女性の果たしてきた役割りや実績を振り返り、伝統工芸の素晴らしさを改めて確認し、これからの社会における女性の活躍を支援する展示とする。					
内容	①口伝集による「さくら織り」展示 ②機織りの歴史展示 ③女性活躍社会に係る展示、アンケート					
工夫	①国立歴史民俗博物館企画展示に合わせて「性差（ジェンダー）の日本史」〈令和2年10月～12月〉において、和田公民館所蔵の「手織りの仲間さくら」製作はたおり作品が展示される事に合わせて、関連展示とし歴博の展示と整合の取れるものとしている。 ②開館20周年記念展示 和田ふるさと館歴史民俗資料室の開館20周年記念として、実施。 ③新型コロナウイルス感染症対策 資料室各所に手指消毒剤を設置、アンケート記入においても十分留意して頂くよう努めた。					
成果	①県外各所から機織りや和服等に係る活動等をされている方々も来館され、文化交流を推進出来た。 ②歴史民俗博物館とのつながりが出来た。 ③佐倉の機織り団体の交流や結束を強める事が出来た。					
課題	①機織り文化をさらに推進し、特に若年層に関心を持ってもらう工夫が必要である。 ②つながりの出来た機関、団体、個人等との交流を継続していく必要がある。 ③施設来館者が、地域周遊等を図れるようなさらなる工夫も併せて必要と考える。					

【公民館による事業評価】

項目	評価	視点
必要性	A	<ul style="list-style-type: none"> 公民館が行う必要があるか。 市民や利用者のニーズに合っているか。 目的や役割が薄れていないか。 事業の休止・廃止した場合の影響は大きいかな。
優先性	A	<ul style="list-style-type: none"> 事業の優先度は高いか。
公平性	B	<ul style="list-style-type: none"> 対象者に情報は流れているか。 受益者負担はあるか(実費・教材費)
有効性	A	<ul style="list-style-type: none"> 期待通りの成果が得られているか。 さらに成果を高めるためにやり方の見直しは必要か。 市民の満足度は高いか。
効率性	A	<ul style="list-style-type: none"> 事業の効率性はどうか。 事業運営に学習者が参画しているか。 他事業との統合は考えられるか。
総合評価	A	<p>A：適切で成果が得られている。 B：課題あり、成果はある程度ある。 C：課題あり、成果があまりない。 D：成果が得られていない。</p>
特記	事業を始めてから30年以上が経過し、地域に定着化している。参加者の満足度も高く、卒業生はその後も教室に関わる事が多い。	



次年度展望	②	①：事業拡大 ④：目的達成により終了	②：現状規模で継続 ⑤：統合・改善・その他	③：事業縮小
-------	---	-----------------------	--------------------------	--------

令和2年度 和田公民館 広報・展示事業

和田口伝の機織り
—女性活躍社会に向けて—

1. 広報展示事業について

2. これまでの企画展示について

3. 和田口伝の機織り展について

1. 広報展示事業について

(1) 公民館事業における広報展示活動

社会教育法第22条〈公民館の事業〉

二 討論会、講習会、講演会、実習会、展示会等を開催すること

(2) 和田公民館の広報展示活動

①分館である「和田ふるさと館歴史民俗資料室」における常設展示

・一般来館 ・市内小学校社会科見学 ・一般団体等見学

②企画展示

・公民館文化展〈毎年11月開催〉 ・その他企画展

(3) 和田ふるさと館歴史民俗資料室

①開館:平成13年4月 ②設立経緯:和田地区要望による

③面積:441m² ④施設:展示室、はたおり伝承室、収蔵庫

⑤展示内容:和田地区で収集された古い民具、墨書土器、

伝統工芸品その他 ⑥昨年度来館者数:1,403人

2. これまでの企画展示について

	実施年度	展示名	会 期	来館者数	内 容
1	平成17年度	終戦60年事業 「戦時下の和田村」	平成17年11月16日～12月18日	922人	和田郷勇会協力の下、地区に残る遺物や証言等を示す事で、平和を愛する心を育むことを趣旨とした展示。
2	平成19年度	私立天辺学館	平成19年11月15日～12月24日	704人	私学である天辺学館<現在の中学校教育に相当>の設立と足跡を展示。
3	平成20年度	綾織りの世界	平成20年10月11日～12月15日	466人	手織りの仲間さくら製作による綾織り作品の展示。
4	平成26年度	市制60周年記念「写真に残る和田地区の思い出」	平成26年10月16日～12月7日	584人	佐倉市制60周年記念事業の一環として地区より寄せられた市制施行前後の写真等資料を展示。
5	平成27年度	終戦70年平和祈念 「忘れ得ぬ記憶」 ～戦争と和田村～	平成27年7月8日～9月27日	1,075人	戦時中の和田村の様子を詳しく紹介。当時の貴重な品々を他の博物館からも取り寄せて実施。
6	平成28年度	和田小学校の誕生とその歩み	平成28年7月8日～10月30日	898人	地区唯一の和田小学校が明治41年4月に開校してから、100年以上が経過し、その歩みを辿る。

3. 和田口伝の機織り展について

(1) 事業名

「和田口伝の機織り」～女性活躍社会に向けて～

(2) 会期

令和2年11月17日（火）～12月27日（日）

(3) 場所

和田ふるさと館歴史民俗資料室

(4) 趣旨・概要

和田口伝の機織りの歴史を辿る事で、農業地域における女性の果たしてきた役割りや実績を振り返り、伝統工芸の素晴らしさを改めて確認し、これからの社会における女性の活躍を支援する展示とする。

- ①口伝集による「さくら織り」展示
- ②機織りの歴史展示
- ③女性活躍社会に係る展示、アンケート

(5) 特記事項

①国立歴史民俗博物館企画展示に合わせて

「性差（ジェンダー）の日本史」〈令和2年10月～12月〉において、和田公民館所蔵の「手織りの仲間さくら」製作はたおり作品が展示される事に合わせて、関連展示を行う事とした。趣旨は歴博展示と整合の取れるものとした。

②開館20周年記念展示

和田ふるさと館歴史民俗資料室の開館20周年記念として実施した。

③新型コロナウイルス感染症対策

資料室各所に手指消毒剤を設置、アンケート記入においても十分留意して頂くよう努めた。

(6) 展示内容 〈以下展示パネル原稿等の一部より〉

01 1600×300

令和2年度 和田地区館歴史民俗資料展

和田口伝の機織り

— 女性活躍社会に向けて —

02 550×800

和田地区歴史民俗資料展

和田口伝の機織り

— 女性活躍社会に向けて —

会期／令和2年11月17日(火)～12月27日(日)

場所／和田ふるさと館歴史民俗資料室 入場無料
(佐倉市八木850番地1 電話043-498-0417)

開館時間／午前9時～午後5時(第2、第4月曜日休館)
入場は午後4時30分まで

展示内容／

- ・和田地区伝承『口伝集』による『さくら織り』
- ・機織りの歴史展示
- ・女性活躍社会に係わる展示、アンケート



主催：佐倉市和田公民館
協力：手織りの仲間さくら／和田はたおり保存会／和田小学校PTA民俗資料収集委員会

03 550×800

企画展にあたって

佐倉市は古くは麻の生産で名をはしてあり、その名前の由来を「麻の倉」とする説もあります。当時の麻は朝廷への貢物として重要物資であり、中央との交流の証しといえるものでした。その中で、旧来からの農業地区である和田地区の営みは、太古から現在へと連続に続いています。弥生時代の遺跡からは、糸をつくんでいた道具も発掘されるなど、機織りととの関係は深いものがあります。

今回の企画展示「和田口伝の機織り」は、地区伝承の口伝集を再現してつくられたものを中心に展示致します。佐倉市において、盛んであった機織りの歴史を認識し、大切な伝統として引き継いでいくとともに、この資産が未来を照らす足がかりになってくれればと思います。

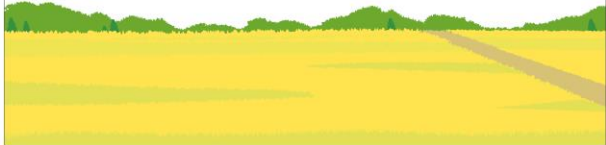
この展示は現在開催中の国立歴史民俗博物館企画展「ジェンダーの歴史」と併せて開催しております。

これからの世の中は女性がこれまで以上に活躍する時代になるといわれています。

優雅で繊細なデザインを作り出す感性を、皆様と感じとって頂ければと思います。

また常設展示におきましても、関連する資料を設置しておりますので、併せてご覧ください。

佐倉市立和田公民館 館長 菅原 敬太





和田の機織りの歴史

いつ頃から始まったか、定かではありませんが、これまでのパネルのとおり機織りには歴史があります。衣は自分で作っていたこと、また弥生時代の遺跡ではその頃から、糸を紡いでいた経緯がわかります。

佐倉の語源が「麻倉」であるとの説などから、かなり古い時代より、織物作りは根付いていたと考えられます。

かつての和田村では、明治時代に入ってから絹糸で織物作りを盛んに行っていました。近隣地域最大の規模といえるものでした。このあたりの経緯は常設展示に説明しています

和田の機織りの特徴

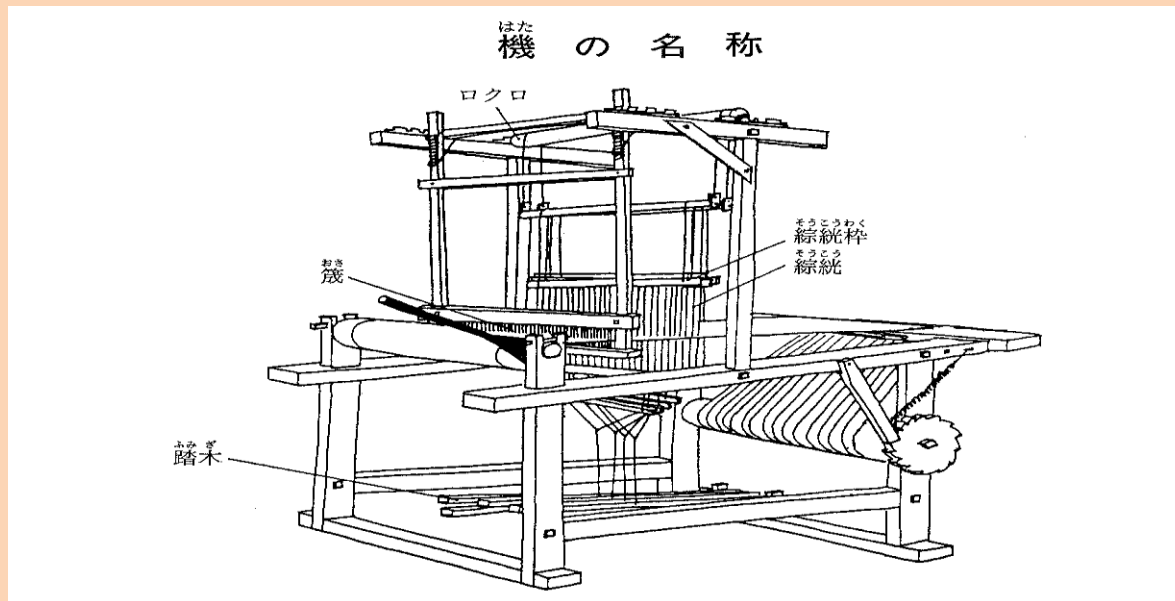
基本的なはた織り機の構造は他のものと同様

[技術面]二枚の綜統を1個のロクロで開ける。

[材 質]絹、綿、麻によっており、木地が比較的厚い。

[デザイン]藍色を基本とし、口伝集のとおり多様なデザインあり。一地域でこれだけの数がある箇所は関東有数。

[織り方]綾織りが中心



女性活躍社会に向けて

かつて機織りは生活上の必需品を供給する日常の仕事でした。そこで培われた技術を伝統工芸として、現在に継承していくことは地域文化、さらには日本の文化の発展のために重要なことといえます。

この和田においては、この貴重な伝統工芸を未来に継承し、それを活かして地域づくりにつなげる活動を継続して行っています。

女性の作り出す優雅できめ細やかなデザインを追求していき女性活躍社会向上に貢献していきたいと考えます。

そのためにも展示をご覧いただいた皆様からも、ご理解・ご支援を頂ければ幸いです。どうぞこれからも佐倉市における機織りの活動を見守って頂きたいと思えます。

ご意見アンケートへのご協力へのお願い

■機織りの原理は実機による解説や実体験などを通さないと、理解は容易ではありません。新型コロナウイルス感染症の影響によりそのような機会を設けることが出来ず、申し訳ございませんが、機織りのデザイン等を鑑賞して頂き、その活動にご理解を頂ければ幸いです。

■入口付近に女性活躍社会に向けてのご意見アンケートコーナーを設置していますので、色々なご意見をお聞かせ下さい。それらのご意見を踏まえてこれからの社会、地域の在り方を考察する上での資料とさせて頂きたいと思えます。

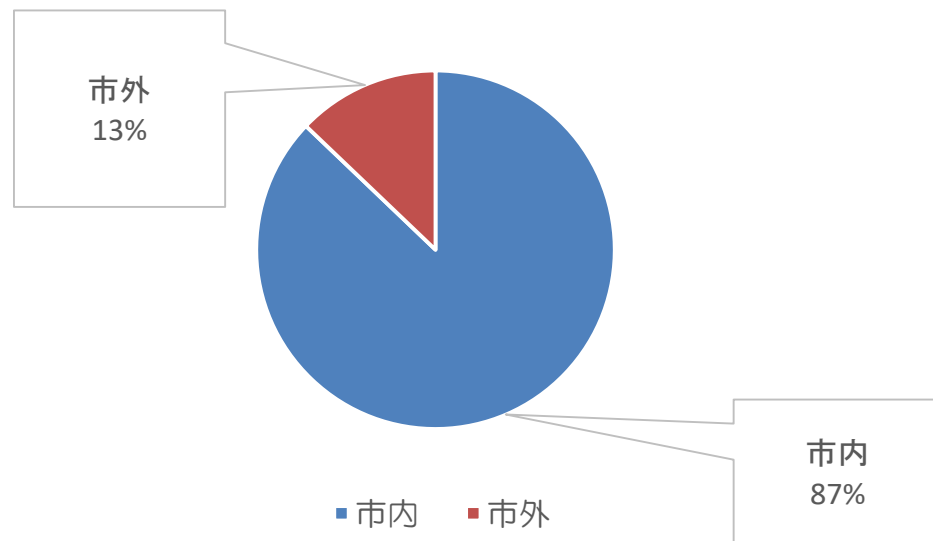
(7)開催状況

①来場者

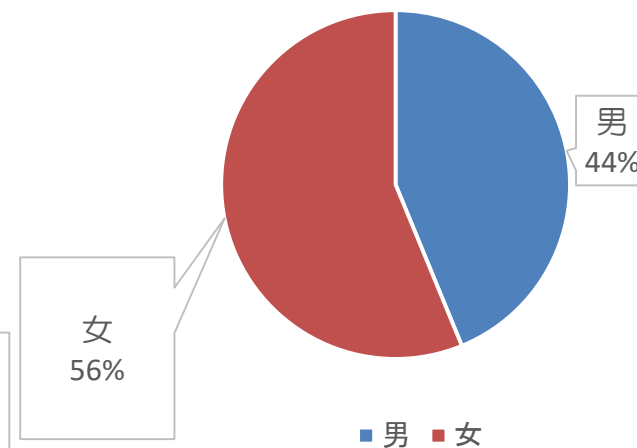
443名【市内386名 市外57名】

【男194名 女249名】

来場者状況〈市内外〉



来場者状況〈男女〉



②女性活躍社会に向けてアンケート集計

回答:32通・内容は次項

女性活躍社会に向けて・アンケート：記入及び〇をお願い致します。

- 性別 ①男性 ②女性
- ご年齢 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代 90代以上
- お住まいの地区
[]市・町・村・他 → []地区 (大字など、自由記入です)
- ジェンダーという言葉をご存知ですか。
①知っている ②知らない
(①を選択された方は5へ、②を選択された方は6へお進みください)
- ジェンダーの意味をご存知ですか。
①よく知っている ②まあまあ知っている ③よくはわからない
- 女性の役割と男性の役割について例えば、
力仕事や経営の仕事は男性 家内の事や子育て等は女性
などの(以前は)社会的に考えられているとされているような事については、納得されますか。
7 納得する ②納得しない ③その他【 】
- お住まいの地区などにおいて、男性的な役割、女性的な役割で固定的になっていると感じる点を下記①～④にあてはめて、〇をして下さい。またご意見もよろしくお願い致します。
①仕事面
②生活面・・・日常の事など
③地域活動・・・PTA、地区活動、祭礼等
④その他
- 社会はこれから女性がより一層活躍される時代です。男女という考え方にこだわりなく、より良い地域社会を構築していくためのご意見等がございましたら、ご記入下さい。

		集計	傾向・分析	
性別	①男性 ②女性	5 27	回答者は女性が多い	
年代	10代	0	60代⇒70代⇒50代と続く	
	20代	0		
	30代	1		
	40代	1		
	50代	7		
	60代	13		
	70代	9		
地区	80代	1	和田地区 市内(和田地区以外) 市外	
	90代以上	0		
	和田地区	13		
	市内(和田地区以外)	15		
ジェンダー言葉	①知っている ②知らない	25 6	佐倉市内の回答が多い ジェンダーの言葉を知っている人が多い	
ジェンダー意味	①よく知っている ②まあまあ知っている ③よくはわからない	0 23 6	ジェンダーの意味はある程度わかる人が多い	
	男女役割	①納得する ②納得しない ③その他	10 13 4	納得する人としない人に分かれる
		固定的に感じられる点	①仕事面 ご意見等	18
②生活面 ご意見等			23	・家事女性という固定観念が成り立ち、反面男性には家庭を顧みなくてよい労働形態になっているなどの意見が多い
③地域活動 ご意見等	19		・地区の評議会委員は全て男性が選出されるなどの意見が多い	
④その他 ご意見等	3		・子供のころに宇宙飛行士になりたいと話したところ、大人にお花屋さんや看護婦などといわないとね、いわれた覚えがある、などの意見がある。	

④成果

- 県外各所から機織りや和服等に係る活動等をされている方々も来館され、文化交流を推進出来た。
- 歴史民俗博物館とのつながりが出来た。
- 佐倉の機織り団体の交流や結束を強める事が出来た。

⑤今後について

- 機織り文化をさらに推進し、特に若年層に関心を持ってもらう工夫が必要である。
- つながりの出来た機関、団体、個人等との交流を継続していく必要がある。
- 施設来館者が、地域周遊等を図れるようなさらなる工夫も併せて必要と考える。